

## 「中谷東五」と絵本の世界

中谷東五は、明治 40(1907)年、現在の福井市下筋生田町の旧家・藤本家の三男として生まれる。本名は藤本東五郎、ペンネームは藤本東五(または東吾)。東京高等工藝學校工芸圖案科(現・千葉大学工学部工業意匠科)で商業デザインを学び、昭和 7 年に卒業。時事新報、博報堂、松竹、新東宝などに勤務。結婚して「中谷東五」と称し、市川市平田 2 丁目に住まう。子(静、巧)、孫(寧、寛)に恵まれる。明治末から大正～昭和～平成の激動の時代を生き、平成 11(1999)年永眠。享年 93 歳。平成 23(2011)年は生誕 104 年となる。



東京高等工藝・創立拾年記念(昭和 6 年)、「コドモノクニ」(東吾の表紙画)、若き日の東五

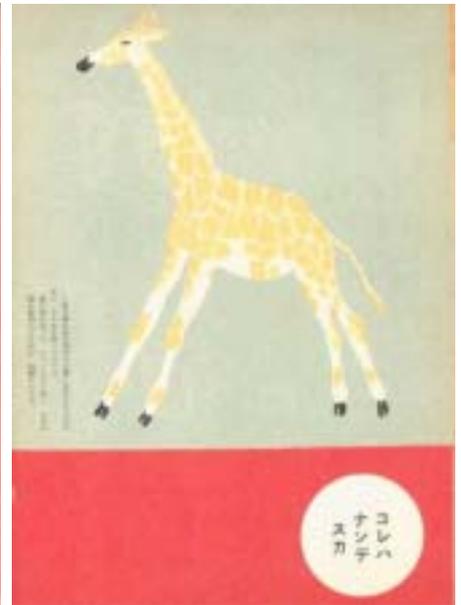
東五がデザインを学んだ高等工藝は、昭和 6 年に創立 10 年を迎えた。写真(上左)はその時の記念品「風鈴」である。昭和 7 年 3 月に高等工藝を卒業、児童雑誌「コドモノクニ」の表紙画・挿絵を手がけたといわれていたが、雑誌や原画が残っておらず、つい最近まで詳細は不明であった。ところが、平成 21(2009)年、たまたま静が「藤本東五」をネット検索し、「熊田千佳慕」の経歴の中に「昭和 11 年以降、東京高等工藝出身の藤本東五とともにグラフィック誌 NIPPON のデザインやレイアウトに携わった」との一文を見つけた。熊田は、昆虫の細密画家で日本のフェアブルとも称され、折しも白寿を祝う個展を松屋銀座にて開催中であったが、個展開催中に急逝。惜しくも若き日の東五について尋ねることは叶わなかった。その後、巧が「コドモノクニ」の所在を調べる過程で、東五の表紙絵・挿絵などが大阪国際児童文学館に所蔵されていることが判り、13 回忌を前にコピーを入手するに至った。「コドモノクニ」は、東京社(現:アセット婦人画報社)より 1922-1944 年の 23 年間に全 265 冊を発行。大正から昭和初期に、いわゆる大正モダニズムを背景に発展、一時代を画した。「童話や音楽を中心とし、親向けの教育的なページ」もあり、「芸術性、デザイン性を重視した作りは子供向けという範疇を超えて新たな芸術総合雑誌」との評価がある(Wikipedia 2011)。一方、世界の絵本史を概観するに、「コドモノクニ」は 19 世紀から 20 世紀初頭における欧米の絵本の発展・隆盛に呼応し、海を越え相互に刺激し合うものであった。当時、「コドモノクニ」を舞台に活躍した主な人物は、童謡顧問として北原白秋、野口雨情。音楽顧問は中山晋平。挿絵画家として武井武雄、竹久夢二、東山魁夷等が名を連ね、若き日の藤本東五もその一人であった。中谷家には芸術分野で活躍するものが多く、長男巧はプロのグラフィックデザイナー、長女静はピアノ教師、絵本・挿絵・絵はがきを制作。孫の寧はジャズピアノを、寛はデザインや作曲を嗜む。商業デザイナーとして知られる中谷眞・彰の兄弟、写真家で福井県在住の飛田邦夫は東五の甥にあたる。13 回忌供養にあたり、若き日の作品を通して中谷東五を偲び、改めて冥福を祈るものである。平成 23 年 4 月 10 日、唐沢孝一摘録。(敬称略)

# 「若き日の中谷東五」

平成 23(2011) 年 4 月 10 日(日)

市川市の「白藤」にて 13 回忌供養を行い、若き日の東五を偲んだ。

児童雑誌「コドモノクニ」の表紙・挿絵（昭和 10 年代の作）



上段 左より「アスカラボクラハ一年生」「パッセル・王様クレイヨン」（昭和 12 年春特別増刊号）、「コレハナンデスカ」

中段 左より「ケフカラボクラハ一年生」「ナハトビ」「ユフベノユメ(童謡)」

下段 「ショウワインドウ(童謡)」「テンプルチャン(童謡)」「アリノオシゴト」